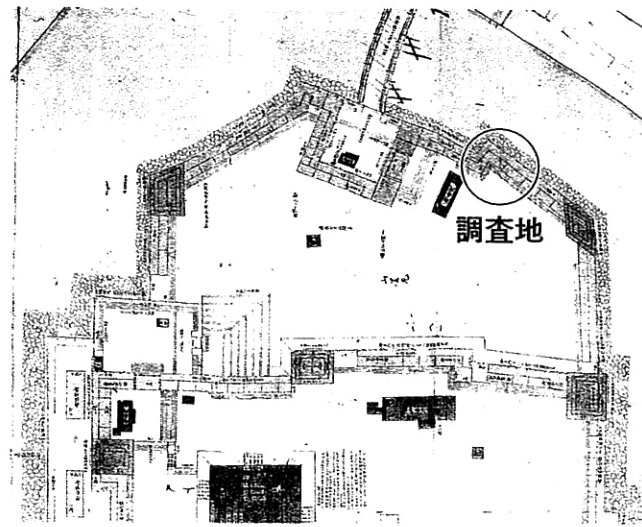


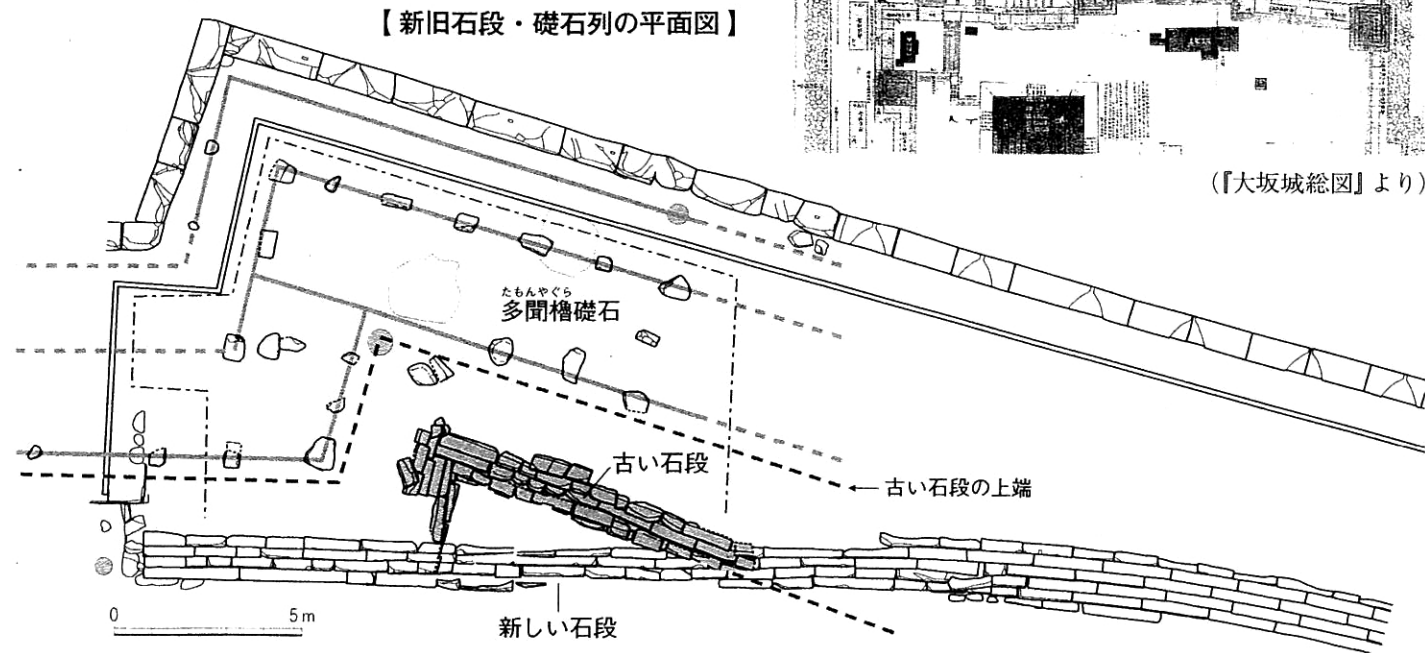
やまざとまる
大坂城跡山里丸発掘調査の現場公開資料

平成 23 年 3 月 5 日 (土)
大阪市教育委員会
大阪文化財研究所

大阪市教育委員会と(財)大阪市博物館協会大阪文化財研究所は、平成 23 年 1 月下旬から、特別史跡大坂城跡内、天守閣北側・山里丸の保存・整備のため、発掘調査を行っています。調査の結果、現在の石段(雁木)の内側に埋もれていた古い石段や、多聞櫓の礎石列が発見され、今後の修復・復元に貴重な成果を得ることができました。

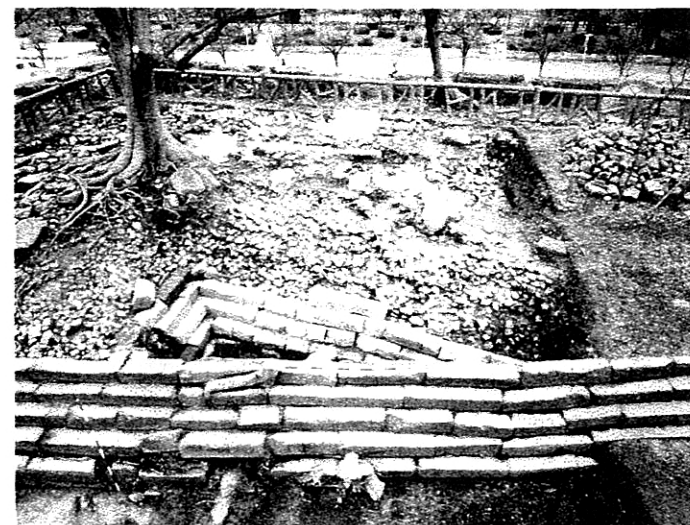


【大坂城総図】より



■石段(雁木)

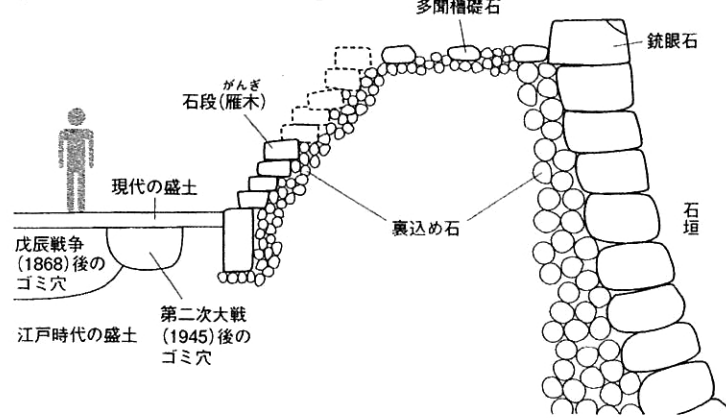
古い絵図には、調査地の石段は、堀に面した石垣の輪郭に沿うように屈曲した形で描かれており、現在の形は後の作り替えであることはあらかじめ想定されていましたが、古い石段が破壊されず、残されていたことは予想外でした。このほか、あきらかになったことは、次のとおりです。



- 古い石段は上部が失われ、残っている石段も大きく崩壊している。
- これらは積み直しの可能性もあるが、最下部で石段を支える大きな石は築造当初(江戸時代初め、1624～1626年)のものと考えられる。
- 石段は多聞櫓の礎石の高さや、石段を固定する裏込め石に残された跡から、当初は9段分あったと復元できる。
- 古い石段の前に新しい石段を作る時に、調査区全体の石段は全面的に修復、あるいは積み直されている。

- その規模・内容から、この修復はこの地で実施された大規模な石垣修復工事(昭和33・34(1958・59)年)の際に、同時に行われた可能性が高い。
- 東側の修復が大規模となったのは、第二次大戦空襲による被害が大きかったためと思われる。
- 調査区から東の古い石段を支える大きな石は地中にまだ埋もれたまま残されている。

【石段、礎石、石垣の関係】



■多聞櫓の礎石列

- 一辺 0.5m から 1.0m の礎石約 20 個が見つかり、櫓の平面形が明らかになった。
- 建物の地面は、戊辰戦争(1868年)や、第二次世界大戦(1945年)による火災によって赤く焼けていた。
- 焼土からは多聞櫓に葺かれていた瓦が発見された。瓦には築造当初の江戸時代初めのもの、19世紀のものがある。



■そのほか

- 古い石段の前には鉄筋コンクリートの建物基礎が見つかり、その近くにはさまざまな生活品(茶碗、コー

ヒーカップ、銚子、インク瓶、薬瓶、歯ブラシなどを捨てたゴミ穴があった。鉄筋コンクリート基礎は上段でも 2カ所確認され、昭和 17～20(1942～45)年にあった軍関係施設、ゴミ穴からの出土品はその施設で用いられたものと考えられる。

【関係年表】

慶長二十年(1615) (元和元年)	大坂夏の陣で大坂城落城し、 全城焼亡、豊臣氏滅ぶ 松平忠明大坂城主となり、焼跡整理と 市街地の復興に努める
五年(1619)	幕府、大坂を直轄地とする
六年(1620)	將軍秀忠、第1期の再建工事を始める
八年(1622)	第1期工事完了
九年(1623)	徳川家光、三代將軍となる
元和十年(1624) (寛永元年)	第2期工事開始(山里丸含む)
寛永三年(1626)	大天守竣工、第2期工事完了
五年(1628)	第3期工事開始
六年(1629)	第3期工事完了
万治三年(1660)	青屋口焰硝蔵に落雷、本丸御殿、 天守など破損、死者多数
寛文五年(1665)	天守の鯨に落雷し、全焼する
天明三年(1783)	大手多聞櫓に落雷し、全焼す
弘化二年(1845)	大坂・兵庫・西宮・堺町人達の御用金で、 大修理工事開始(ほぼ全面的な修理)
嘉永元年(1848)	大天守は欠くが、 再築当初の旧観を取り戻す
安政五年(1858)	大坂城大修理完成する
慶応元年(1865)	將軍家茂、長州征伐のため大坂入城
明治元年(1868)	幕府軍、鳥羽伏見の戦いに敗れて 大坂城に拠る
四年(1871)	全城ほとんど焼失する
十八年(1885)	鎮台本部となる 和歌山城二の丸御殿(紀州御殿)を 本丸に移築する
二十一年(1888)	第四師団司令本部となる
昭和五年(1930)	天守閣復興工事始まる
六年(1931)	天守閣復興する
十七年(1942)	軍による天守閣への入場禁止、山里丸 に軍宿営施設が立ち並ぶ
二十年(1945)	空襲により京橋口多聞、二番、三番、 伏見、門等焼失する
	GHQによる接收
二十四年(1949)	天守閣への一般入場再開
二十八年(1953)	一・六番櫓修復工事開始、 以来各所の修復あいつぐ
三十三年(1958)	山里丸北東石垣修理工事(～59)
三十四年(1959)	大坂城総合学術調査実施し、 本丸地下に石垣を発掘する 現存の全石垣が 徳川再築のものと判明する
六十年(1985)	配水池の南側で豊臣時代大坂城本丸の 詰ノ丸外郭廻り石垣発掘する